

Analisis Kesalahan Mahasiswa Dalam Menggunakan Verba *Furu*, *Kudaru*, *Oriru* dan *Sagaru* Sebagai Sinonim

Ayuningtyas Novitasari

1102046

ABSTRAK

Penelitian ini merupakan penelitian mengenai analisis kesalahan penggunaan verba *furu*, *kudaru*, *oriru* dan *sagaru* sebagai sinonim pada mahasiswa tingkat III tahun akademik 2015/2016 Departemen Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI. Penelitian ini bertujuan untuk mengetahui kesalahan apa saja yang terjadi pada pembelajar bahasa Jepang dalam menggunakan verba *furu*, *kudaru*, *oriru* dan *sagaru* sebagai sinonim, mencari penyebab terjadinya kesalahan tersebut, dan upaya untuk mengurangi terjadinya kesalahan. Penelitian ini menggunakan metode deskriptif. Objek penelitian ini adalah mahasiswa tingkat III tahun akademik 2015/2016 Departemen Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI dengan jumlah sampel sebanyak 60 orang. Pengambilan data dilakukan dengan teknik *one shoot model*. Pengumpulan data dilakukan melalui cara tes dan angket. Berdasarkan hasil analisis, kesalahan terhadap penggunaan verba *furu* adalah 26,67%, kesalahan terhadap penggunaan verba *kudaru* adalah 68,55%, kesalahan terhadap penggunaan verba *oriru* adalah 58,52%, dan kesalahan terhadap penggunaan verba *sagaru* adalah 59,99%. Faktor – faktor penyebab terjadinya kesalahan penggunaan verba *furu*, *kudaru*, *oriru* dan *sagaru* adalah kurangnya pemahaman mengenai penggunaan verba *furu*, *kudaru*, *oriru* dan *sagaru* dengan tepat, kurangnya pengetahuan mengenai fungsi verba *furu*, *kudaru*, *oriru* dan *sagaru*, dan kurangnya pemahaman mengenai persamaan dan perbedaan verba *furu*, *kudaru*, *oriru* dan *sagaru*.

Kata Kunci : sinonim, *furu*, *kudaru*, *oriru*, *sagaru*, kesalahan, analisis kesalahan

Error Analysis of The Use Japanese Synonym Furu, Kudaru, Oriru, And Sagaru By Japanese Student

Ayuningtyas Novitasari

1102046

ABSTRACT

This study is about the analysis of error regarding the use of Japanese synonym furu, kudaru, oriru, and sagaru by third years students of DPBJ FPBS UPI 2015/2016. The purpose of this study was to determine any errors that occur when using synonym furu, kudaru, oriru, and sagaru in on Japanese Language learner. The method used in this research is descriptive type of survey with the instrument in the form of objective test and questionnaire. Data collection was done by using one shoot models. The sample of this study is the third years students of DPBJ FPBS UPI 2015/2016, with a sample of 60 people. The result of this research shows, the error of use of furu verb are 26,67%, the error of use of kudaru verb are 68,55%, the error of use of oriru verb are 58,52%, and the error of use of sagaru verb are 59,99%. The cause of error on the use of Japanese synonym furu, kudaru, oriru, and sagaru are the lack of understanding of the use, lack of understanding of the differences, a lack of meaning and function of Japanese synonym furu, kudaru, oriru, and sagaru.

Key word : Synonym Furu, Kudaru, Oriru, Sagaru, error, error analysis

学生における類義語 「降る、下る、降りる、下がる」の誤用分析

アユニンテイヤス・ノヴィタサリ

1102046

要旨

本研究ではインドネシア教育大学言語文芸教育学部日本語教育学科の三年生の学生 60人 (2015/2016 年度) が対象に、類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の誤用分析を行った。本研究目的は日本語の学習者がどのような誤用の起こすが学習者によって「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の類義語の誤用の原因を探し、類義語の使用の誤用を減らすことを探す。本研究の方法はデスクリプト法である。One shoot model 法によるテストとアンケート調査を行われた。データを収集するために、テストとアンケートを使用した。選択方と真偽方と完成方の結果によると、「降る」を含む文に対する誤用は 26, 67% を占め、「下る」を含む文に対する誤用は 68, 55% を占め、「降りる」を含む文に対する誤用は 58, 52% を占め、「下がる」を含む文に対する誤用は 59, 99% を占める。類義語の誤用の原因は、類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の使い分けである。学習者は「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の機能をあまり理解しないのである。また、「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の類似と違いをあまり理解できないと分かってきた。

キーワード : 類義語、「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」、誤用分析

A. はじめに

日本語の類義語の合計がたくさんであり、一つの単語に限らない。日本語学習者の基礎な難しさは、様態による類義語の使い方である。日本語の単語に類義語の存在がほぼ発見しやすいことである。類義語の一番多かった日本語の単語は動詞である。例えば「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」。インドネシア語で翻訳されたら、その四つの

単語は同じく “turun” という意味を持っている。大体、動詞「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の以前の研究は同義語とか、意味の分析についてと探った。だが、本研究には日本語の文の動詞「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の誤用の使用について探ることである。上記の通り、筆者はこの四つの単語の研究に興味がありなお、2015・2016 年度インドネシア教育大学言語文芸教育学部日本語教育学科の三年生における類義語「降る、下る、降りる、下がる」の誤用分析を行いたい。

B. 研究の目的

1. 学習者の動詞の類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の理解の能力を知るためである。
2. 学習者のどんな動詞の類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の誤用を明らかにするためである。
3. 学習者による動詞の類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の誤用の原因を探っていく。
4. 動詞の類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の使用誤用の解決方法に探る。

C. 研究の方法

本研究の目的は学生における動詞の類義語 「降る、下る、降りる、下がる」の誤用を知るためである。そのため、この研究の方法は記述方法を使用する。Sutedi (2011, hlm.58)は、記述方法について記述法とはそのままの状態を説明する方法である。」データ収集をするため、2015・2016 年度インドネシア教育大学言語文芸教育学部日本語教育学科の三年生の中から 60 名を対象者に、一回を取る法よるテストである。テストは三つ分かれ、つまり選択方、真偽方、完成方である。本研究デザインには Random sampling 研究のデザインでサンプルを選ぶこと

にした。運用の難しさ及びデータを得るために、アンケートをした。
データの分析の方法は次の通りである。

1) テスト

- a. データを調査して、計算する。
- b. テストの結果は誤用のデータを取ることである。
- c. 誤用の頻度数とプレゼンテーション表を作る。
- d. 誤用を計算し、公式は次のようである。

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

P: 誤用のプレゼンテーション

f: 頻度の答え

n: 協力者の数

- e. 誤用(error)のデータが得る後、筆者はこの研究問題を答えるために、分析をする。
- f. データ分析による、結論を作る。

2). アンケートのデータを計算す。公式は次のようである :

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

P : 割合

f : 頻度の答え

n : 協力者の数

アンケートの解釈の基準

パーセント	解釈
0%	いない
1-5%	ほとんどいない
6-25%	一部いる
26-49%	半分以下
50%	半分
51-75	半分以上
76-95%	かなり多い
96-99	ほとんど全部
100%	全部

D. 研究結果

本研究の結果は次の通りである。

テストのタイプ	マテリ	番互	誤用	%	誤用	%
せんたくほう 「選択方」	降る	2	7	11,67%	33	18,34%
		5	19	31,67%		
		15	7	11,67%		
	降りる	7	41	68,33%	29	52,22%
		9	26	43,33%		
		13	27	45%		
	下る	1	43	71,67%	207	69%
		4	39	65%		
		8	39	65%		
		12	45	75%		
		14	41	68,33%		
	下がる	3	44	73,33%	174	72,49%

		6	42	70%		
		10	47	78,33%		
		11	41	68,33%		
しんぎほう 「真偽方」	降る	4	33	55%	43	35,83%
		7	10	16,67%		
	降りる	1	44	73,33%	76	63,33%
		8	32	53,33%		
	下る	6	38	63,33%	38	63,33%
	下がる	2	24	40%	81	45%
		3	24	40%		
5		33	55%			
かんせいほう 「完成方」	降る	4	11	18,33%	31	25,83%
		5	20	33,33%		
	降りる	1	36	60%	36	60%
		2	41	68,33%		
	下る	6	47	78,33%	88	73,33%
		3	35	58,33%		
	下がる	7	40	66,67%	75	62,5%

本研究の結果は次の通りであるため、学習者の動詞の類義語「降る」、「下る」、「降りる」、「下がる」の使用誤用のプレゼンテーションを全額する：

マテリ	テストタイプ	誤用のプレゼンテーション	全額の誤用のプレゼンテーション
降る	せんたくほう	18,34%	26,67%
	しんぎほう	35,83%	
	かんせいほう	25,83%	
下る	せんたくほう	69%	68,55%
	しんぎほう	63,33%	

	かんせいほう	73,33%	
降りる	せんたくほう	52,22%	58,52%
	しんぎほう	63,33%	
	かんせいほう	60%	
下がる	せんたくほう	72,49%	59,99%
	しんぎほう	45%	
	かんせいほう	62,5%	

1. 上記の表を見ると、次のように述べていく：

- a. 動詞「降る」の使い分けの誤りは 26,67%である。
- b. 動詞「下る」の使い分けの誤りは 68,55%である。
- c. 動詞「降りる」の使い分けの誤りは 58,52%である。
- d. 動詞「下がる」の使い分けの誤りは 59,99%である。

2. 誤用の原因

- a. 本研究の主な誤りは動詞の類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」の使い分けである。
- b. 学習者は類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」の機能をあまり理解しない。
- c. 学習者は類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」の類似と違いをあまり理解しない。
- d. 学習者は授業以外で動詞の類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」をあまり使わないと分かって来た。

E. 終わりに

上記で述べたように、動詞の類義語の一番多かった誤用の使い分けは「下る」、その次には「下がる」、そしてその次は「降りる」。また、最後に「降る」。本研究から、類義語の誤用の原因は動詞の類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」の使い分けはあまり

分かっていない。学習者は類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」の機能をあまり理解しない。学習者は類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」の類似と違いをあまり理解しないことである。また、学習者は授業以外で動詞の類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」をあまり使わないと分かって来た。

F. 今後の課題

本研究では完全の研究ではなかった。そのため、将来の研究は今後の課題にする。その課題は、三年生における動詞の類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」誤用の使用は非常に高いと分かった、四年生における動詞の類義語「降る」.「下る」.「降りる」.「下がる」誤用の使用を研究しなければならない。

G. 参考文献

Sutedi, D. (2011). *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: UPI Press Humaniora.